

パートの仲間は手をつなごう！

全労連 パ・臨のなかま NO.3

2012.11.1 発行

全労連TEL03-5842-5611

東京都文京区湯島 2-4-4

Eメール part@zenroren.gr.jp

不安定で劣悪な雇用実態を明らかにし、改善求める大きな世論をつくろう 12/10/28 非正規センター第5回総会

10月28日(日)、非正規センター第5回総会を東京お茶の水の中央大学駿河台記念館で開催しました(7単産、13地方組織から33人参加)。

非正規センター副代表の柳恵美子さんを総会議長に、冒頭、非正規センター代表の大黒作治全労連議長が開会挨拶をおこない、国家戦略会議フロンティア分科会が示す「有期雇用を基本とする社会」などの動きにもふれながら、賃上げ、最賃引上げ、公契約、労働法制改善などの課題で、劣悪な状況に置かれている非正規労働者と一緒に運動していかなければ運動は進まないし、組織化と要求前進の取り組みをセットにして非正規労働者を運動の主人公にする取り組みを強化しなければ大きく発展しない。1800万人非正規労働者の待遇改善は待ったなしの課題であり、全労連への期待も高まっているとして、非正規センターが重要であり機能強化が必要としました。

事務局長の江花新全労連常任幹事は、非正規労働者の劣悪すぎる状態にたいしては、厚労省も是正が必要だとの認識を示し、「12年版労働経済白書」では、正規化すれば実質家計消費支出を約6.3兆円も押し上げるなどの推計もしているが、やっていることは規制緩和であり、期待できない。労働組合の取り組み強化が求められているとし、劣悪な実態の可視化、「貧困と格差」の是正を求める世論の高揚に力を尽くそうと呼びかけました。また、そのためにも、サポーター制度の充実はじめ非正規センターの強化が必要であり、あり方、体制も含めた検討を行っていくことを提起しました。

事務局長の江花新全労連常任幹事は、非正規労働者の劣悪すぎる状態にたいしては、厚労省も是正が必要だとの認識を示し、「12年版労働経済白書」では、正規化すれば実質家計消費支出を約6.3兆円も押し上げるなどの推計もしているが、やっていることは規制緩和であり、期待できない。労働組合の取り組み強化が求められているとし、劣悪な実態の可視化、「貧困と格差」の是正を求める世論の高揚に力を尽くそうと呼びかけました。また、そのためにも、サポーター制度の充実はじめ非正規センターの強化が必要であり、あり方、体制も含めた検討を行っていくことを提起しました。

討論では4人が発言。

パ臨連副代表の大場みゆきさんは、パ臨連総会の様子にふれながら、困難はあっても全国各地で運動を前進させているとし、待遇改善に向けたアピールを強め、多くの人との連帯をつくり、組織を大きくしていくと発言。

大阪労連の嘉満智子さんは、(パ臨連とは別に)正規と非正規と一緒にディーセントワークの実現を追求する組織として、非正規労働者部会を結成し運動が広がっていることを報告。



ヘルパーネット世話人の蛭名孝宏さんは「介護報酬改定に関するヘルパーアンケート」の取り組みを報告し、利用者もヘルパーも我慢しているためあまり表に出ていないが、実は深刻な実態になっていることを可視化できたと報告。

熊本県労連の榎本光男さんは、外国人実習生問題でのシンポを福岡と東京で開催したことを発言し、阿蘇農業実習生裁判への支援を訴えました。

最後に非正規センター副代表の根本隆全労連副議長は、日本経済を立て直すために内需拡大の運動をつくっていくことが求められているが、そのためには非正規労働者の状態を改善させる必要がある。非正規センターを強化し、非正規労働者の雇用の安定、均等待遇実現の大きな世論と運動をつくろうとよびかけ、閉会しました。

新役員

代表	大黒 作治（全労連議長）
副代表	柳 恵美子（パート・臨時労組連絡会 代表） 本多ミヨ子（外国人問題連絡会 事務局次長） 根本 隆（全労連副議長、ヘルパーネット 世話人）
事務局長	江花 新（全労連常任幹事）
幹事	熊谷由紀枝（パート・臨時労組連絡会 副代表） 斎藤 寛生（全労連常任幹事、派遣請負連絡会 責任者） 蛭名 孝宏（ヘルパーネット 世話人）
事務局	阿部清美・小林正彦・小田島俊